

札幌保健医療大学 御中

新研究科設置計画に係る採用需要調査報告書

2021 年 12 月

丸善雄松堂株式会社
Research & Innovation 本部
コンサルティング部

 **MARUZEN-YUSHODO**

目次

1. 調査概要	2
2. 調査・分析結果の要旨	3
3. 全体集計結果	5
4. 札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」への関心分析	14
5. 採用需要推計	22
6. 補記	23

1. 調査概要

(1)調査目的

札幌保健医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)設置計画検討のため、本アンケート調査により事業所の人材需要等を把握し、設置計画の基礎資料とすることを目的とする。

(2)調査対象

設置が検討される新研究科の専攻分野から選定した卒業生の就職先として考えられる事業所

(3)実施時期

2021 年 9 月 30 日～2021 年 11 月 1 日

(4)回収状況

本調査では 77 事業所を対象にアンケート調査票を配布し、34 件のアンケートを回収することが出来た(回収率 44.2%)

(5)調査方法

調査票による定量調査(アンケート調査)

(6)利用調査票

添付アンケート調査票参照

2. 調査・分析結果の要旨

(1)調査結果の要旨

①事業所の種別

回答事業所の種別は、「病院・診療所」15 事業所(44.1%)が最も多く、「訪問看護ステーション」12 事業所(35.3%)、「介護保険関連施設」5 事業所(14.7%)と続いている。

②回答者の属性

回答者の属性は、「看護部の管理者または採用担当者」16 事業所(47.1%)が最も多く、4 割以上となっており、「訪問看護ステーションの管理者または採用担当者」7 事業所(20.6%)、「介護保険関連施設の管理者または採用担当者」5 事業所(14.7%)と続いている。

③看護職者および管理栄養士の人数(常勤)

回答事業所の看護職者および管理栄養士の人数(常勤)は下記のとおり。

看護師			保健師			助産師			管理栄養士		
事業所数(事業所)	常勤人数(人)		事業所数(事業所)	常勤人数(人)		事業所数(事業所)	常勤人数(人)		事業所数(事業所)	常勤人数(人)	
合計	30	3,495	合計	23	52	合計	20	90	合計	27	135

④必要な人材

回答事業所における必要な人材は、「健康生活向上支援領域」「健康生活再生支援領域」各 20 事業所(43.5%)となっており、「どちらの領域も必要としない」は 3 事業所(6.5%)となっている。

⑤修了生の採用意向・人数

回答事業所の札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」修了生の採用意向人数は、「採用したい」が 9 事業所 21 人、「採用を検討したい」が 13 事業所(うち 1 事業所は人数未回答)15 人となっており、これらの合計は人数を回答した事業所のみで 36 人となっている。

⑥採用の前提となる保有資格・免許

回答事業所の札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」修了生の採用の際に前提となる保有資格・免許について、「看護師」18 事業所(52.9%)が最も多く、「管理栄養士」9 事業所(26.5%)、「保健師」5 事業所(14.7%)と続いている。

(2)分析結果の要旨

採用意向で人数が未回答であった事業所の採用希望人数を保守的に1事業所当たり1人と仮定した場合、調査結果に基づく札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」修了生の推計採用意向人数は、「採用したい」のみで21人となり入学定員(5人)の4.2倍、「採用を検討したい」まで含めると37人で入学定員(5人)の7.4倍となる。

以上から、札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」修了生に対する一定の採用需要があるといえる。(P9)

また、回答事業所が必要とする人材について、「Q4.必要な人材」では「健康生活向上支援領域」および「健康生活再生支援領域」の各領域が養成する人材を、それぞれ20事業所(各43.5%)が必要としており(P8)、新研究科の教育・研究の特色やそこで養成する「地域に暮らす人々の健康生活の向上を支援する専門職人材」「健康障害をもつ人々の健康回復と生活再生を支援する専門職人材」と社会需要の整合性が確認できる。

従って、今後、教育・研究の質担保によって優秀な修了生が社会で活躍することが、札幌保健医療大学 大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)の評価を高め、採用需要を拡大する重要な成功要因になると考える。

一方、「Q5.採用意向」では、回答した34事業所のうち13事業所(38.2%)が「どちらともいえない」と回答している(P9)ことから、この層には当該研究科の教育・研究の特色や方針が十分に伝わっていないと推察される。

従って、教育・研究の特色や養成する人材像について丁寧に説明したうえで、就職先となる事業所連携を強化することも今後の課題となる。

3. 全体集計結果

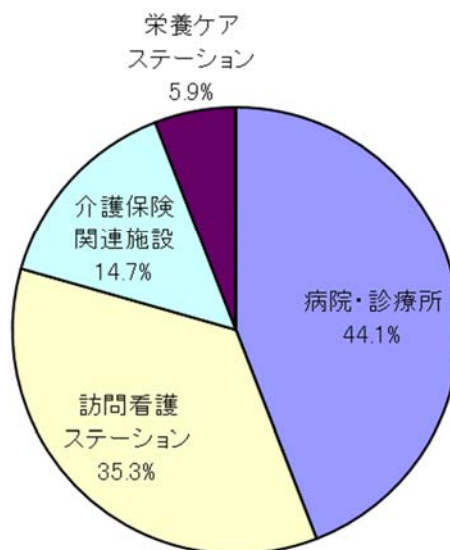
Q1)事業所の種別

回答事業所の種別は、「病院・診療所」15 事業所(44.1%)が最も多く、「訪問看護ステーション」12 事業所(35.3%)、「介護保険関連施設」5 事業所(14.7%)と続いている。

Q1) 貴機関・貴施設の種別をお答えください。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	34	100.0%
病院・診療所	15	44.1%
保健所・保健センター	0	0.0%
訪問看護ステーション	12	35.3%
介護保険関連施設	5	14.7%
栄養ケアステーション	2	5.9%
一般企業	0	0.0%
その他	0	0.0%
未回答・無効回答	0	0.0%

Q1



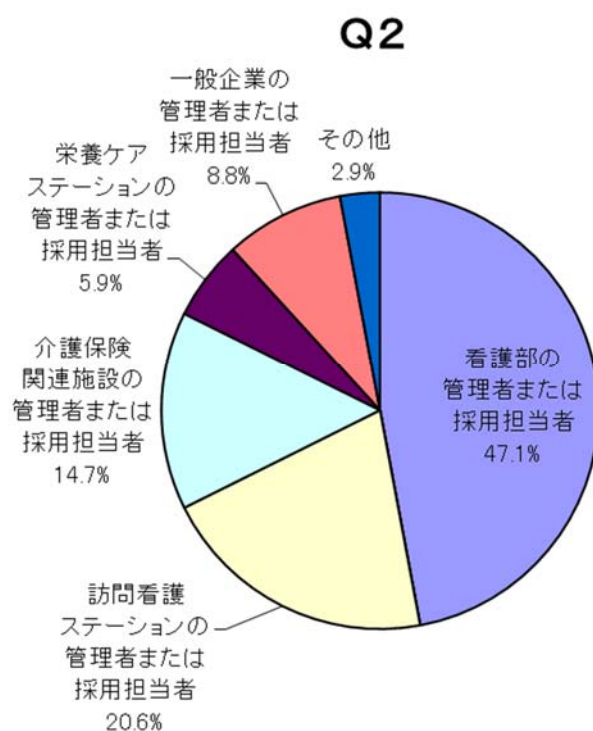
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q2)回答者の属性

回答者の属性は、「看護部の管理者または採用担当者」16 事業所(47.1%)が最も多く、4割以上となっており、「訪問看護ステーションの管理者または採用担当者」7 事業所(20.6%)、「介護保険関連施設の管理者または採用担当者」5 事業所(14.7%)と続いている。

Q2)ご回答者様について、あてはまる状況をお答えください。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	34	100.0%
看護部の管理者または採用担当者	16	47.1%
保健所・保健センターの管理者	0	0.0%
訪問看護ステーションの管理者または採用担当者	7	20.6%
介護保険関連施設の管理者または採用担当者	5	14.7%
栄養ケアステーションの管理者または採用担当者	2	5.9%
一般企業の管理者または採用担当者	3	8.8%
その他	1	2.9%
未回答・無効回答	0	0.0%



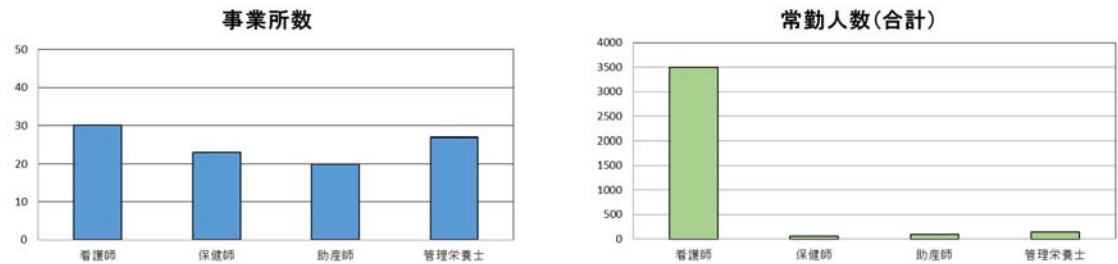
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q3)看護職者および管理栄養士の人数（常勤）

回答事業所の勤務している看護職者および管理栄養士の人数(常勤)は以下のとおりとなっている。

Q3)貴機関・貴施設に勤務されている看護職者および管理栄養士の人数(常勤)をお答えください。
(主に従事されるものをベースに、概数でお答えください。)

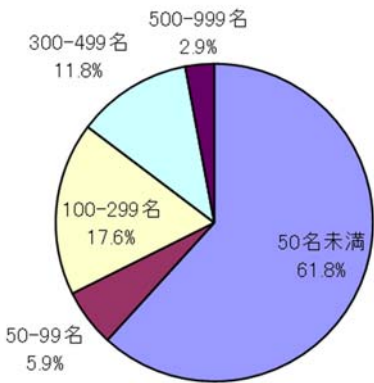
看護師		保健師		助産師		管理栄養士	
事業者数(事業所)	常勤人数(人)	事業者数(事業所)	常勤人数(人)	事業者数(事業所)	常勤人数(人)	事業者数(事業所)	常勤人数(人)
合計	30	23	52	20	90	27	135



(参考) 人数分布

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	34	100.0%
50名未満	21	61.8%
50-99名	2	5.9%
100-299名	6	17.6%
300-499名	4	11.8%
500-999名	1	2.9%
1,000名以上	0	0.0%
未回答・無効回答	0	0.0%

Q3



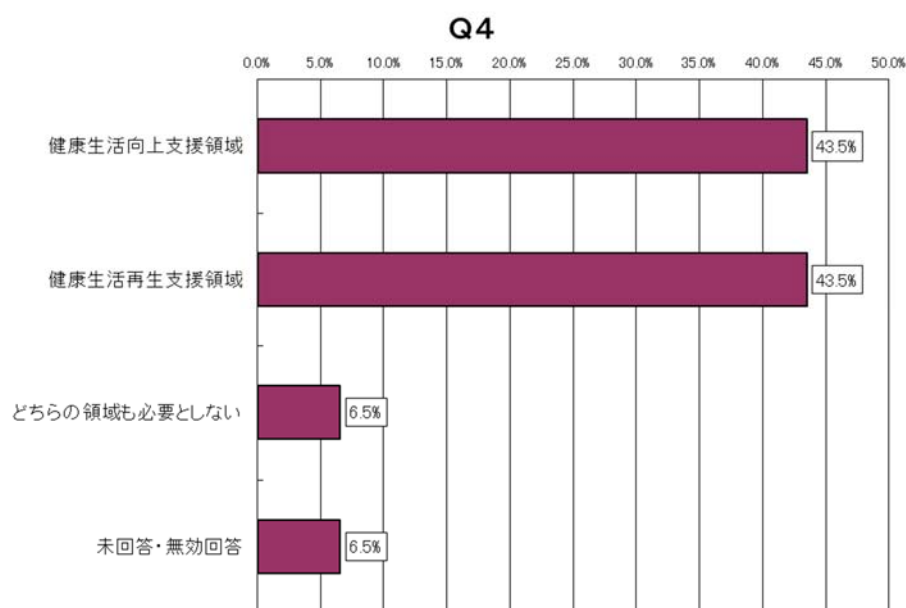
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q4)必要な人材

回答事業所における必要な人材は、「健康生活向上支援領域」「健康生活再生支援領域」各20事業所(43.5%)となっており、「どちらの領域も必要としない」は3事業所(6.5%)となっている。

Q4)札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程（仮称）」の領域が養成する人材について、貴機関・貴施設において必要と思われる人材をお答えください。
(あてはまるものすべてに○をしてください)

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	46	100.0%
健康生活向上支援領域	20	43.5%
健康生活再生支援領域	20	43.5%
どちらの領域も必要としない	3	6.5%
未回答・無効回答	3	6.5%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

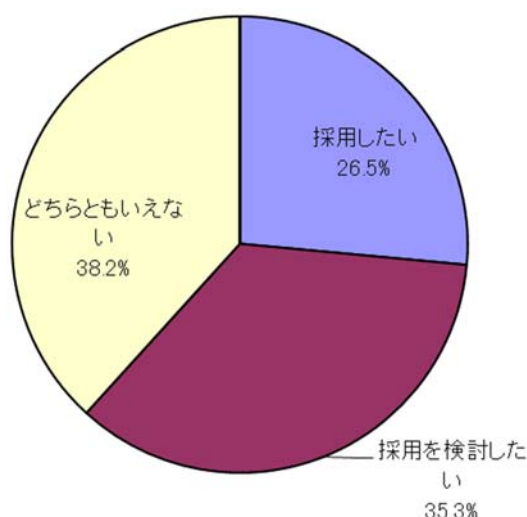
Q5)-1 修了生の採用意向

回答事業所の札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」修了生の採用意向について、「採用したい」が9事業所(26.5%)、「採用を検討したい」が12事業所(35.3%)でこれらの合計が21事業所(61.8%)となり、6割以上の事業所が札幌保健医療大学「大学院保健医療学専攻修士課程(仮称)」修了生に対する何らかの採用意向を持っていることがわかる。一方、「どちらともいえない」は13事業所(38.2%)、「採用しない」と回答した事業所はなかった。

Q5)貴機関・貴施設において、札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」が養成する人材(修了生)を採用したいと思われますか。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	34	100.0%
採用したい	9	26.5%
採用を検討したい	12	35.3%
どちらともいえない	13	38.2%
採用しない	0	0.0%
未回答・無効回答	0	0.0%

Q5



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q5)-2 修了生の採用意向人数

回答事業所の札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」修了生の採用意向人数は、「採用したい」が9事業所21人、「採用を検討したい」が13事業所(うち1事業所は人数未回答)15人となっており、これらの合計は人数を回答した事業所のみで36人となっている。

Q5)-2 札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」 修了生の採用意向人数

Q5)採用意向	採用希望人数内訳(人)	
採用したい	9事業所→計21人	0事業所→未回答
採用を検討したい	12事業所→計15人	1事業所→未回答

上記の数値は札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」修了生の採用需要をまとめたもので、「採用したい」のみで入学定員(5人)の4.2倍、「採用を検討したい」まで含めると7.2倍となる。

以上から、札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」修了生に対する一定の採用需要があるといえる。

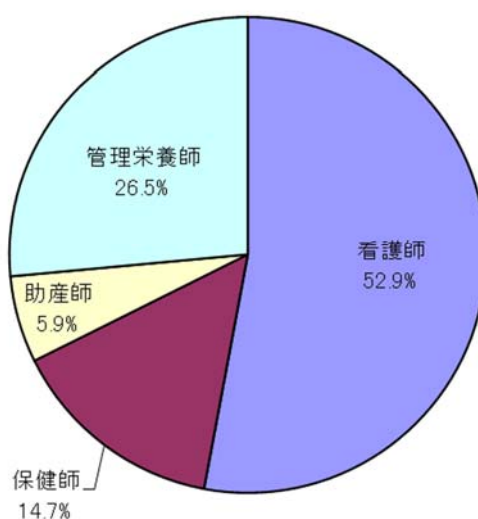
Q5)-3 採用の前提となる保有資格・免許 *あてはまるものすべて

回答事業所の札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」修了生の採用の際に前提となる保有資格・免許について、「看護師」18 事業所(52.9%)が最も多く、「管理栄養士」9 事業所(26.5%)、「保健師」5 事業所(14.7%)と続いている。

Q5)-3 採用の前提となる保有資格・免許

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	34	100.0%
看護師	18	52.9%
保健師	5	14.7%
助産師	2	5.9%
管理栄養師	9	26.5%

Q5採用の前提となる資格・免許



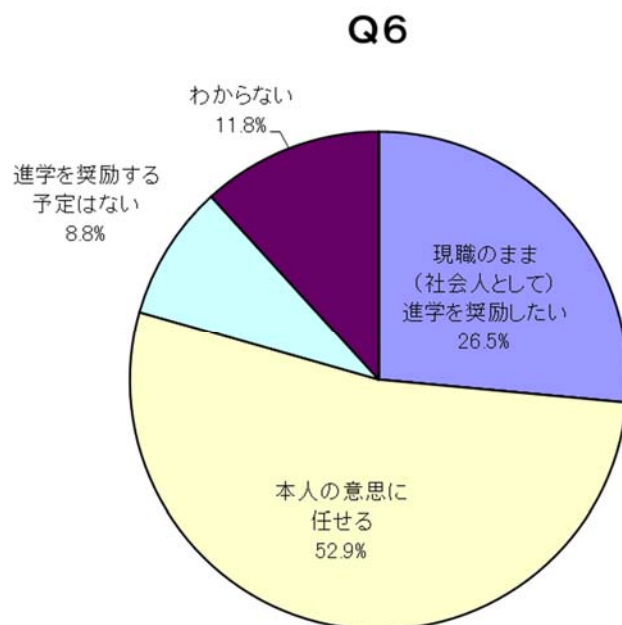
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q6)進学の奨励

回答事業所の札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」への進学奨励について、「本人の意思に任せる」18 事業所(52.9%)が最も多く、「現職のまま(社会人として)進学を奨励したい」9 事業所(26.5%)、「わからない」4 事業所(11.8%)と続いている。

Q6)貴機関・貴施設で勤務されている人材を札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」で学ばせるために、進学のご奨励についてお答えください。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	34	100.0%
現職のまま(社会人として)進学を奨励したい	9	26.5%
研修制度・休職制度などを利用させ進学を奨励したい	0	0.0%
本人の意思に任せる	18	52.9%
進学を奨励する予定はない	3	8.8%
わからない	4	11.8%
未回答・無効回答	0	0.0%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q7)札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」に期待する点・要望

Q7)札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」に対して、期待される点やご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

Q7
説明の内容だけではどのような領域の研究となるのかイメージがつきにくいのですが、領域を特定するのではなく保健医療全般(栄養学も含む)をベースに地域生活者の生活、疾病の過程への支援など広く探求するということでしょうか？だとすると今後の人口構造や社会構造へ対応する人材育成が期待できると感じました。社会人入学者への配慮はぜひお願いします(サテライトetc)。
低栄養、貧血、偏食によるDM、腎、肝、障害・・・etc、栄養を課題とした方は非常に多く、そのアプローチが訪看Nsに求められていると思っています。一方で食事を摂るプロセスは毎日のことなので、経済的、本人の嗜好、価値感、社会資源(サポート)によって分かっているけどできないことが多いです(病院や施設のように画一化できない)。研究専門性を高めることは非常に大切ですが、一方で地域で実践できる形にどのように広げていくかを提案サポートできる人材を期待します。
専門性を身に付けた人材の育成とともに人間力も高めていただければと思います。
専門分野での認定看護師がステーションに在住している事は、利用者にとってとても安心がでけると思われます。私達のステーションは、看護師として勤務経験が3年以上の方を採用しているため、すぐの採用は難しいと思われます。
コロナ禍などでも活躍してもらえるような人材育成。
栄養に加しいNsが地域にいととも心強いと思われます。
現在にはニーズが少ない。高齢化、少子化社会には必要になるかもしれません。また、実際にはどのような立場で役割を果たしていただくことが良いのか採用する側として悩みます。

4. 札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」への関心分析

札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」の関心層

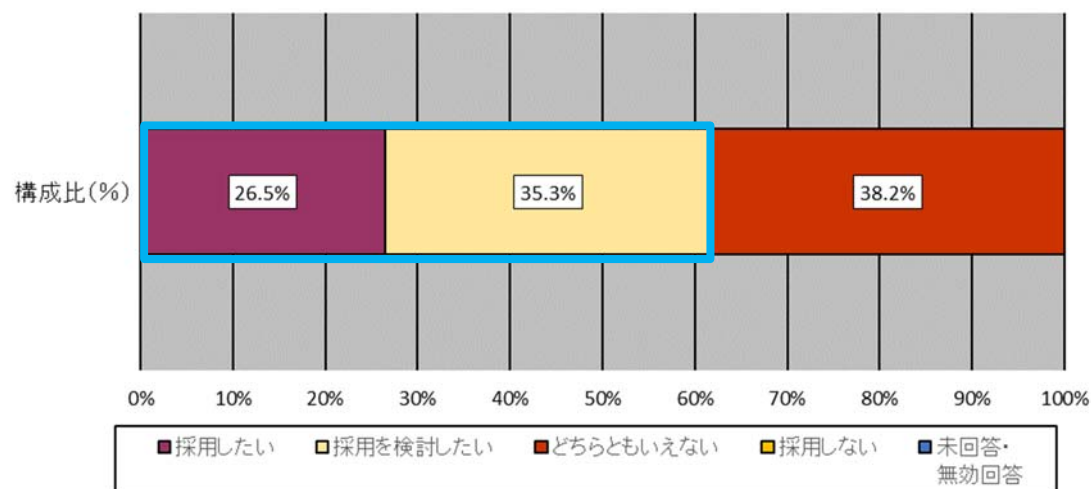
札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」への関心を分析するため、次のとおり「関心層」を定義する。

Q5)-1において、修了生を「採用したい」9事業所(26.5%)、「採用を検討したい」12事業所(35.3%)と回答した計21事業所(61.8%)を「関心層」と定義し、次項より「関心層」の傾向を分析する。

Q5)貴機関・貴施設において、札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」が養成する人材(修了生)を採用したいと思われませんか。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	34	100.0%
採用したい	9	26.5%
採用を検討したい	12	35.3%
どちらともいえない	13	38.2%
採用しない	0	0.0%
未回答・無効回答	0	0.0%

関心層



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*次頁以降の集計は、各設問から未回答・無効回答を除いて集計

Q1)事業所の種別×Q5)-1 採用意向

関心層の事業所の種別は、「訪問看護ステーション」9 事業所(42.9%)が最も多く、「病院・診療所」7 事業所(33.3%)、「介護保険関連施設」3 事業所(14.3%)と続いている。

また、dif(関心層での比率－全体平均での比率)では、関心層と事業所の種別で「訪問看護ステーション」と回答した層に相関性がみられ、「栄養ケアステーション」と回答した層にやや相関性がみられる。

Q1)事業所の種別と Q5)-1 採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q1)種別	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	どちらともいえない		採用しない	
調査数	34	100.0%	9	100.0%	12	100.0%	21	100.0%		13	100.0%	0	0.0%
病院・診療所	15	44.1%	1	11.1%	6	50.0%	7	33.3%	-10.8%	8	61.5%	0	0.0%
保健所・保健センター	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
訪問看護ステーション	12	35.3%	4	44.4%	5	41.7%	9	42.9%	7.6%	3	23.1%	0	0.0%
介護保険関連施設	5	14.7%	3	33.3%	0	0.0%	3	14.3%	-0.4%	2	15.4%	0	0.0%
栄養ケアステーション	2	5.9%	1	11.1%	1	8.3%	2	9.5%	3.6%	0	0.0%	0	0.0%
一般企業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q5)-1 札幌保健医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)修了生の採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が 100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif＝関心層での比率－全体平均での比率

Q2)回答者の属性×Q5)-1 採用意向

関心層の回答者の属性は、「看護部の管理者または採用担当者」10 事業所(47.6%)が最も多く、「訪問看護ステーションの管理者または採用担当者」4 事業所(19.0%)、「介護保険関連施設の管理者または採用担当者」3 事業所(14.3%)と続いている。

また、dif(関心層での比率－全体平均での比率)では、関心層と回答者の属性で「栄養ケアステーションの管理者または採用担当者」と回答した層にやや相関性がみられる。

Q2)回答者の属性と Q5)-1 採用意向の相関性

単位：(事業所) (%)

Q2)回答者状況	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	どちらともいえない		採用しない	
調査数	34	100.0%	9	100.0%	12	100.0%	21	100.0%		13	100.0%	0	0.0%
看護部の管理者または採用担当者	16	47.1%	3	33.3%	7	58.3%	10	47.6%	0.6%	6	46.2%	0	0.0%
保健所・保健センターの管理者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
訪問看護ステーションの管理者または採用担当者	7	20.6%	1	11.1%	3	25.0%	4	19.0%	-1.5%	3	23.1%	0	0.0%
介護保険関連施設の管理者または採用担当者	5	14.7%	3	33.3%	0	0.0%	3	14.3%	-0.4%	2	15.4%	0	0.0%
栄養ケアステーションの管理者または採用担当者	2	5.9%	1	11.1%	1	8.3%	2	9.5%	-3.6%	0	0.0%	0	0.0%
一般企業の管理者または採用担当者	3	8.8%	1	11.1%	1	8.3%	2	9.5%	0.7%	1	7.7%	0	0.0%
その他	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-2.9%	1	7.7%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q5)-1 札幌保健医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)修了生の採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が 100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif＝関心層での比率－全体平均での比率

Q3)-1 看護職者および管理栄養士の人数(常勤)：看護師×Q5)-1 採用意向

関心層の看護師の常勤人数は、「50 名未満」15 事業所(71.4%)が最も多く、「100-299 名」4 事業所(19.0%)、「300-499 名」「500-999 名」各 1 事業所(4.8%)と続いている。

また、dif(関心層での比率－全体平均での比率)では、関心層と看護師の常勤人数で「50 名未満」と回答した層に相関性がみられ、「500-999 名」と回答した層にもやや相関性がみられる。

Q3)-1 常勤人数(看護師)と Q5)-1 採用意向の相関性

単位：(事業所) (%)

Q3)常勤人数 看護師	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	どちらともいえない		採用しない	
調査数	34	100.0%	9	100.0%	12	100.0%	21	100.0%		13	100.0%	0	0.0%
50名未満	22	64.7%	9	100.0%	6	50.0%	15	71.4%	6.7%	7	53.8%	0	0.0%
50-99名	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-2.9%	1	7.7%	0	0.0%
100-299名	7	20.6%	0	0.0%	4	33.3%	4	19.0%	-1.5%	3	23.1%	0	0.0%
300-499名	3	8.8%	0	0.0%	1	8.3%	1	4.8%	-4.1%	2	15.4%	0	0.0%
500-999名	1	2.9%	0	0.0%	1	8.3%	1	4.8%	1.8%	0	0.0%	0	0.0%
1,000名以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q5)-1 札幌保健医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)修了生の採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が 100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif＝関心層での比率－全体平均での比率

Q3)-2 看護職者および管理栄養士の人数(常勤)：保健師×Q5)-1 採用意向

関心層の保健師の常勤人数は、「50 名未満」21 事業所(100.0%)となっていることから、dif(関心層での比率－全体平均での比率)による相関性はみられなかった。

Q3)-2 常勤人数(保健師)と Q5)-1 採用意向の相関性

単位：(事業所) (%)

Q3)常勤人数 保健師	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	どちらともいえない		採用しない	
調査数	34	100.0%	9	100.0%	12	100.0%	21	100.0%		13	100.0%	0	0.0%
50名未満	34	100.0%	9	100.0%	12	100.0%	21	100.0%	0.0%	13	100.0%	0	0.0%
50-99名	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
100-299名	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
300-499名	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
500-999名	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
1,000名以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q5)-1 札幌保健医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)修了生の採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が 100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif＝関心層での比率－全体平均での比率

Q3)-3 看護職者および管理栄養士の人数(常勤)：助産師×Q5)-1 採用意向

関心層の助産師の常勤人数は、「50 名未満」20 事業所(95.2%)が最も多く、「50-99 名」1 事業所(4.8%)と続いている。

また、dif(関心層での比率－全体平均での比率)では、関心層と助産師の常勤人数で「50-99 名」と回答した層にやや相関性がみられる。

Q3)-3 常勤人数(助産師)と Q5)-1 採用意向の相関性

単位：(事業所) (%)

Q3)常勤人数 助産師	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	どちらともいえない		採用しない	
調査数	34	100.0%	9	100.0%	12	100.0%	21	100.0%		13	100.0%	0	0.0%
50名未満	33	97.1%	9	100.0%	11	91.7%	20	95.2%	-1.8%	13	100.0%	0	0.0%
50-99名	1	2.9%	0	0.0%	1	8.3%	1	4.8%	1.8%	0	0.0%	0	0.0%
100-299名	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
300-499名	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
500-999名	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
1,000名以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q5)-1 札幌保健医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)修了生の採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が 100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif＝関心層での比率－全体平均での比率

Q3)-4 看護職者および管理栄養士の人数(常勤)：管理栄養士×Q5)-1 採用意向

関心層の管理栄養士の常勤人数は、「50 名未満」20 事業所(95.2%)が最も多く、「50-99 名」1 事業所(4.8%)と続いている。

また、dif(関心層での比率－全体平均での比率)では、関心層と管理栄養士の常勤人数で「50-99 名」と回答した層にやや相関性がみられる。

Q3)-4 常勤人数（管理栄養士）と Q5)-1 採用意向の相関性

単位：（事業所）（%）

Q3)常勤人数 管理栄養士	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	どちらともいえない		採用しない	
調査数	34	100.0%	9	100.0%	12	100.0%	21	100.0%		13	100.0%	0	0.0%
50名未満	33	97.1%	8	88.9%	12	100.0%	20	95.2%	-1.8%	13	100.0%	0	0.0%
50-99名	1	2.9%	1	11.1%	0	0.0%	1	4.8%	1.8%	0	0.0%	0	0.0%
100-299名	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
300-499名	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
500-999名	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
1,000名以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q5)-1 札幌保健医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)修了生の採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が 100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif＝関心層での比率－全体平均での比率

Q6)進学奨励×Q5)-1 採用意向

関心層の進学の奨励について、「本人の意思に任せる」12 事業所(57.1%)が最も多く、「現職のまま(社会人として)進学を奨励したい」8 事業所(38.1%)、「わからない」1 事業所(4.8%)と続いている。

また、dif(関心層での比率－全体平均での比率)では、関心層と進学の奨励で「現職のまま(社会人として)進学を奨励したい」と回答した層に高い相関性が、「本人の意思に任せる」と回答した層にもやや相関性がみられる。

Q6)進学奨励と Q5)-1 採用意向の相関性

単位：(事業所) (%)

Q6)進学の奨励	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	どちらともいえない		採用しない	
調査数	34	100.0%	9	100.0%	12	100.0%	21	100.0%		13	100.0%	0	0.0%
現職のまま(社会人として)進学を奨励したい	9	26.5%	5	55.6%	3	25.0%	8	38.1%	11.6%	1	7.7%	0	0.0%
研修制度・休職制度などを利用させ進学を奨励したい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
本人の意思に任せる	18	52.9%	4	44.4%	8	66.7%	12	57.1%	4.2%	6	46.2%	0	0.0%
進学を奨励する予定はない	3	8.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-8.8%	3	23.1%	0	0.0%
わからない	4	11.8%	0	0.0%	1	8.3%	1	4.8%	-7.0%	3	23.1%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q5)-1 札幌保健医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)修了生の採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が 100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif＝関心層での比率－全体平均での比率

5. 採用需要推計

札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」修了生の採用需要推計

看護札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」修了生が採用される可能性のある人数は下記のとおり。

Q5)採用意向	採用希望人数内訳(人)	
採用したい	9事業所→計21人	0事業所→未回答
採用を検討したい	12事業所→計15人	1事業所→未回答

実際に採用に至るか否かについては、就職希望者個人の人格や能力が大きく影響することから、ここでは「採用したい」に加えて「採用を検討したい」までを採用需要として定義する。上記の採用意向で人数が未回答であった事業所の採用希望人数を保守的に1事業所当たり1人と仮定した場合、推計採用意向人数(採用の可能性のある人数)は下記のとおりとなる。

Q5)採用意向	採用希望人数内訳(人)
採用したい 9事業所	9事業所21人+0事業所0人=21人
採用を検討したい 12事業所	12事業所15人+1事業所1人=16人
合計	37人

調査結果に基づく札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」修了生の推計採用意向人数は、「採用したい」のみで21人となり入学定員(5人)の4.2倍、「採用を検討したい」まで含めると37人で入学定員(5人)の7.4倍となる。

以上から、札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)」修了生に対する一定の採用需要があるといえる。

6. 補記

アンケート説明文 1/2

2021年9月28日

学校法人 吉田学園

札幌保健医療大学大学院設置準備室

札幌保健医療大学大学院保健医療学研究科開設に係る概要

学校法人吉田学園は、以下の趣旨のもとに札幌保健医療大学大学院を2023年度の開設を目処に準備しております。

開設予定の大学院研究科名称： 札幌保健医療大学大学院保健医療学研究科

専攻名・課程： 保健医療学専攻 修士課程

学 位： 修士（保健医療学）

入学定員数： 5名

初年度納入金： 1,000千円（入学金 200千円、授業料【年額】800千円）

大学の住所： 札幌市東区中沼西4条2丁目（平日の授業は札幌市中央区南3条西1丁目の学校法人吉田学園専門学校北海道福祉・保育大学の講義室をサテライト教室として使用予定）

1. 開設の趣旨

札幌保健医療大学（以下、「本学」という。）保健医療学部は、看護学科と栄養学科を有し、本学の教育理念「人間力教育を根幹とした医療人の育成」のもとに看護師、保健師（選択）、管理栄養士、栄養教諭（選択）を養成しています。

本学の教育目的：看護学科では、あらゆる健康レベル及び発達段階の人を対象に心身の「健康」と「生活」を支援できる専門的能力をもつ看護師・保健師を、また栄養学科では「栄養と食生活」を専門に「健康」と「生活」を支援できる専門的能力をもつ管理栄養士を養成することで、保健医療や社会環境の変化に応じて、人々の健康生活の課題に対応できる保健医療の専門職者を育成し、社会に貢献しています。

本学教育の特色：保健医療学部には栄養学科があるのは全国でも珍しい大学です。本学で養成する看護師・保健師及び管理栄養士は「健康」「生活」「栄養」の共通した役割機能と活動の場をもつ専門職です。本学は、両学科の共通性を活かした合同授業を行い、相互理解とチーム連携力の強化を図っています。

大学院の設置：本学は、教育理念と学部教育の特色を活かした保健医療系の教育成果と将来への発展を考え、保健医療学に精通した幅広い知見と高度な専門性と、多様な関係職種との連携力、指導力、マネジメント力を備えた実践者、及び将来の教育や研究に携わることのできる専門職者を養成することを目的に大学院開設を計画し、以て地域の保健医療福祉及び保健医療学の発展に貢献します。

2. 本学大学院開設の背景と必要性

<開設に至る社会的背景>

近年の保健医療問題として、少子・超高齢化、疾病構造の変化、様々な要因による健康格差や健康寿命の停滞、医学的管理の急進と複雑化、地域格差等があり、さらに北海道では広大・厳寒な地域特性から医療の地域格差や人材不足も深刻となっており、保健医療の新たな対応が求められています。

厚生労働省は、「国民の健康づくり（健康日本21）」において、国民の健康づくり、生活習慣と社会環境の改善によって全ての人々が健康に生活できる社会づくりを推進しており、特に高齢化社会の急進に対しては各地域の実情に合った地域包括ケアシステムづくりを推奨しています。また、医療面では、患者と家族を中心とした医学的管理、ケアやQOLの向上を求めています。このように、現代の保健医療の向上のためには保健医療専門職自身の質向上と多職種による組織的な取り組みが不可欠であり、将来の保健医療が人々の社会生活や経済と調和した機能を果たすために、保健医療の新しい価値観やビジョンを共有した次世代型の人材養成が求められています。また、文部科学省からは、これまでの特定の専門分

アンケート説明文 2/2

野に止まらず、新たな知見・価値の創出のために多様な専門分野がチームとして結集し、社会的解決・改善できる能力をもった人材育成が求められています。なかでも、大学院教育に対しては高度な専門力、創造的な研究力、確かな教育力等をもって社会を先導する人材の養成が期待されています。

＜本学大学院開設の必要性＞

このような保健医療や社会の情勢をふまえ、本学では学部教育を基盤に、より広い概念である「保健医療学」から看護学・栄養学を捉え直し、保健医療学の幅広い視野に立ち、高度な専門性を探求するとともに、限られた人的資源のもとで相互理解に立った連携・調整力、チームの指導的役割やマネジメントを担うことのできる実践者、教育者、研究者として携わることのできる人材を社会に輩出するために大学院修士課程の設立に至りました。

本学では、「保健医療」とは安全で安心して生活できる「幸福」への追求と実現のために、人々の健康の維持増進、病気の予防、健康回復と新たな生活の構築をめざす社会的機能であると捉え、「保健医療学」はこの機能の発展のために複数の専門分野が総合された応用科学であり、保健医療体制の改善や質的向上、新たな「知」と「実践」方法等を探求する実践学であると考えています。

本研究科は、看護学と栄養学の専門知識・技術を教授研究し深めるとともに、これらが有機的に連携・共有するための組織づくりや運営、教育に関する教授研究を含む教育課程を計画しています。保健医療学専攻は、「健康生活支援」をキーワードに、「地域に暮らす人々の健康生活の向上のための支援」と「健康障害をもつ人々の健康回復、生活再生のための支援」に関する専門性を探求すること、さらにその背景にある保健医療政策や体制の課題探求、健康増進や医療分野の基礎科学的解明、専門職教育を含む人的資源等の課題についても探求するものです。

3. 養成する人材

本研究科保健医療学専攻では、「健康生活向上支援領域」「健康生活再生支援領域」の二つの領域をもって、保健医療分野での高度な専門的能力や連携力、指導力、マネジメント力を有し、さらに職業社会で活用可能な理論的・実践的な教育・研究力を備え、保健医療福祉に貢献できる人材を養成します。

1) 地域に暮らす人々の健康生活の向上を支援する保健医療において、高度な実践及び教育・研究活動をもって貢献できる人材

あらゆるライフステージにおいて健康の維持増進、病気の予防を目的とした生活の向上を支援する専門職として、変化する社会と保健医療環境の理解を深め、社会要因や現行制度による健康課題の焦点化・明確化を図り、解決・改善のための支援方法・システムを創出し、実施・評価できる能力を有する人材を養成する。

2) 健康障害をもつ人々の健康回復と生活再生を支援する保健医療学において、高度な実践及び教育・研究活動をもって貢献できる人材

医療福祉施設や在宅で療養、通院等による治療処置やリハビリテーションの受療過程、健康障害による再適応過程での心身の健康生活の再生を支援する専門職として、医療の進歩と地域格差、介護ニーズと家族関係の変化、倫理的問題等が複雑多岐に存在することを理解した上で、さまざまな療養過程にある人の健康と生活上の問題を明確化し、QOLの向上や生活の再生と安定化、人的・社会的環境の調整等を含む支援方法・システムを創出し、実施・評価できる能力を有する人材を養成する。

以上

アンケート調査票 1/2

札幌保健医療大学大学院 保健医療学研究科

※2023年4月開設に向け設置構想中 保健医療学専攻修士課程（仮称）

採用意向についてのアンケート調査

（対象者：看護職者および管理栄養士の管理者・採用ご担当の皆様）

札幌保健医療大学は2023年4月に向けて「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程（仮称）」の設置を構想しています。本学はこのアンケート調査を通して、医療機関・福祉施設・企業の皆様に将来的な修生の採用、さらに大学院への看護職者・管理栄養士の進学ご推奨の可能性について、率直なご意見をお聞かせいただきたいと考えております。なお、回答いただいた内容については、本学が責任をもって統計処理いたしますので、個人が特定されるようなことはありません。また、集計結果は、「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程（仮称）」の設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケートにご協力いただける皆様につきましては、別紙札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程（仮称）設置概要」をお読みいただき、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

問1 貴機関・貴施設の種別をお答えください。（あてはまるもの1つに○をしてください）

- | | | |
|-------------|---------------|---------------|
| 1. 病院・診療所 | 2. 保健所・保健センター | 3. 訪問看護ステーション |
| 4. 介護保険関連施設 | 5. 栄養ケアステーション | 6. 一般企業 |
| 7. その他（ ） | | |

問2 ご回答者様について、あてはまる状況をお答えください。（あてはまるもの1つに○をしてください）

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. 看護部の管理者または採用担当者 | 2. 保健所・保健センターの管理者 |
| 3. 訪問看護ステーションの管理者または採用担当者 | 4. 介護保険関連施設の管理者または採用担当者 |
| 5. 栄養ケアステーションの管理者または採用担当者 | 6. 一般企業の管理者または採用担当者 |
| 7. その他（ ） | |

問3 貴機関・貴施設に勤務されている看護職者および管理栄養士の人数（常勤）をお答えください。（主に従事されるものをベースに、概数でお答えください。）

【看護師】

人

【保健師】

人

【助産師】

人

【管理栄養士】

人

問4 札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程（仮称）」の領域が養成する人材に

ついて、貴機関・貴施設において必要と思われる人材をお答えください。

（あてはまるものすべてに○をしてください。）

1. 健康生活向上支援領域
2. 健康生活再生支援領域
3. どちらの領域も必要としない

アンケート調査票 2/2

問5 貴機関・貴施設において、札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程（仮称）」が養成する人材（修了生）を採用したいと思われますか。

（あてはまるもの1つに○をし、1・2と回答された場合によろしければ該当する人数をご記入ください）

1. 採用したい 2. 採用を検討したい 3. どちらともいえない 4. 採用しない

1・2と回答された場合、よろしければご記入ください。

●採用したい人数 _____ 名

●採用が前提となる保有資格・免許（あてはまるものすべてに○をしてください）

1. 看護師 2. 保健師 3. 助産師 4. 管理栄養士

問6 貴機関・貴施設で勤務されている人材を札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程（仮称）」で学ばせるために、進学のご奨励についてお答えください。

（あてはまるもの1つに○をしてください）

1. 現職のまま（社会人として）進学を奨励したい
2. 研修制度・給食制度などを利用させ進学を奨励したい
3. 本人の意思に任せる
4. 進学を奨励する予定はない
5. わからない

問7 札幌保健医療大学「大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程（仮称）」に対して、期待される点やご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

恐れいりますが、返信用封筒をご利用の上、期日までにご投函いただきますようご協力をお願い申し上げます。

札幌保健医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程（仮称）
設置構想に係る意見書

北海道では、安全で安心して心豊かに住み続けることができる活力ある地域社会を形成するため、「暮らしを守る地域医療の確保と健康づくりの推進」、「医療・福祉サービスを担う人材の確保」等を重点政策の柱とし、地域に必要な医療の確保や健康で安心して活躍できる社会づくりに取り組むとともに、医療や福祉サービスに必要な人材の確保とキャリア形成を推進しております。

ライフスタイルや価値観の多様化により、看護師や管理栄養士など保健医療専門職を取り巻く環境は大きく変化しており、人々の多様なニーズに応え、質の高いケアを提供するため、多職種による組織的な取組や高い専門性の取得が求められるなど、新しい価値観やビジョンを共有した次世代型の人材育成も必要とされております。

こうした中、学校法人吉田学園札幌保健医療大学におかれては、「人間力教育を根幹とした医療人の育成」という教育理念のもと、看護学科と栄養学科を設置し、両学科が連携した教育課程の編成や、合同科目による授業展開を通じ、自他職種の理解とチーム連携力の強化を図るなど特色ある教育を進め、保健医療や社会環境の変化に応じた人々の健康生活の課題に対応できる保健医療専門職を育成してきました。

このたび開設予定の大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程（仮称）においては、これまでの学部教育を基盤に保健医療学の見地から看護学・栄養学を捉え、各々の専門分野の知見を共有・活用し、有機的に連携・協働するための能力向上や、教育・研究の基盤となる能力を育成し、複合的に履修できる教育課程を予定するなど、将来の本道の保健医療福祉を担う人材の育成に大きく貢献されるものと強く期待するところであります。

令和3年12月24日



札幌保健医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程（仮称）

設置構想に係る意見書

公益社団法人北海道看護協会（以下「本会」という。）は、看護師等の職業倫理の向上並びに看護に関する専門的教育及び学術の研究に努めるとともに、看護師等の就業促進及び確保を図るための活動を行い、もって道民の健康と福祉の向上に寄与することを目的に活動を行っております。

北海道における広大な面積・多雪・寒冷といった本道の地理的・気象的特性に加え、地域の人口の減少や高齢化の進行等の実情をふまえ、「第7次北海道医療計画（平成30年度～令和5年度）」（以下「北海道医療計画」という。）の中間見直しを終え、在宅医療における訪問看護ステーションの役割の発揮や感染症・災害への対応力強化、医療と介護の連携促進等、2040年を見据えた医療・介護ニーズに対応する体制整備が急務となっております。医療と生活の両方の視点をもつ看護職が療養者や地域に暮らす全ての人々の健康増進・疾病予防・療養支援を実践し、看護を必要としている人々に対して、いつでも、どこでも、タイムリーに支援するための医療と介護のより一層のネットワーク強化と、そのための看護職の自己研鑽は不可欠となっております。本会は「教育及び学会等の学術振興による看護の質向上に関する事業」、「看護職確保定着推進に関する事業」、「地域ケアサービスの実施及び促進による道民の健康及び福祉の増進に関する事業」、「その他本会の目的を達成するために必要な事業」を掲げ、道民の健康と福祉の向上のためにこれらの事業を推進しているところです。特に、令和3年度には地域ケアサービスにおいて、全世代を対象とした包括ケアシステムの充実に向けた医療機関と「生活の場」での専門性の発揮、看護職間の連携及び多職種との協働の推進、道民の生涯にわたる健康づくりと健康課題への対応等の強化を図っております。事業の推進にあたり、根本的な課題として医療従事者の偏在による医療の地域格差が現存しており、その改善・解決を図ることも重要課題といえます。

今般、札幌保健医療大学が設置構想中の大学院保健医療学研究科保健医療学専攻における「人々の健康増進と生活向上のための支援」と「健康問題を持つ人々の健康回復と生活再生のための支援」領域での専門性の探究は看護職の質的向上、さらに限られた専門分野ではありますが、看護学と栄養学の分野での協働の強化を可能にし、本会の多職種連携研修でも課題に挙がっている栄養と食生活の改善を推進するものと考えます。保健医療の縦割りの関係から、大学院で看護職と栄養職が協力しながら専門性を発展させ、保健医療に貢献していくという、正に現在の保健医療の場で求められる知識・能力の拡大であると理解しています。

現代の保健医療に対応できる保健医療専門職の質的向上と多職種による組織的な取組は不可欠であり、保健医療の新しい価値観やビジョンを共有した人材養成は共感できるものであります。

2021（令和3）年 12月20日



札幌保健医療大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程(仮称)
設置構想に係る意見書

公益社団法人北海道栄養士会(以下「本会」という。)は、栄養改善を通じて道民の健康の保持増進および疾病の予防を図るとともに、栄養士の資質の向上につとめ、もって道民の福祉の増進に寄与することを目的に活動しています。

本会では、「道民の栄養改善に関する調査および研究事業」を初め「道民の栄養および健康に関する知識の普及のための事業」「自己研鑽のための研修事業」道民の栄養相談窓口として「栄養ケア・ステーション事業」等を行ってきております。

北海道では、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会をめざして「北海道健康増進計画 すこやか北海道 21」を推進しています。適切な「栄養・食生活」は、健康づくりには欠かせない要素であり、その適否が健康寿命の延伸に寄与するといわれており、管理栄養士等は、「栄養・食生活」分野のエキスパートとして活動しています。

また、「北海道医療計画」では、医療機関の機能分担と連携を図り、地域医療の体系化を推進し、良質で切れ目のない医療を推進することとしており、管理栄養士は医療機関の栄養管理部門の中核として臨床栄養に携わっています。

一方で、高齢化が進行する中、医療や介護が必要となっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる環境整備を進めることが必要になっています。

「暮らしを守る地域医療の確保と健康づくり」を推進するためには、「医療・福祉サービスを担う人材確保」等の課題があります。

このたび開設予定の大学院保健医療学研究科保健医療修士課程(仮称)においては、これまでの学部教育を基盤に保健医療学の見地から看護学・栄養学をとらえ、各々の専門分野の知見を共有・活用することにより、多様な他者との連携・協働力の強化、調整・マネジメント力の醸成により、実践能力の基盤、かつ将来の教育や研究に携わることのできる人材育成に大きく貢献されるものと期待します。

2022(令和 4)年 2 月 4 日

札幌保健医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程（仮称）設置構想に係る意見書

世界に類を見ない速さで高齢化が進行する我が国において、社会保障政策の最重要課題の一つが持続可能な医療・介護の制度設計です。医療介護政策の中でもとりわけ重要なのは在宅ケアの基盤整備です。2014年6月25日に医療介護総合確保推進法が可決成立し、その改正内容は病床機能報告制度、地域医療構想の法定化、地域医療構想に基づいた地域医療計画の策定、医療と介護の連携等多岐にわたっています。このため国では2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。

しかし、地域包括ケアシステムの一翼を担う訪問看護ステーションは利用者が急増し、重度の障がいのある小児や精神障がいがある在宅生活者、認知症の人など利用者の重度化・多様化・複雑化が顕著になってきています。

さらに、訪問看護ステーション数は、平成24年頃より増加傾向にはありますが、まだまだ地域によって偏在しており、訪問看護師数も十分とは言えず、在宅・地域で療養生活をおくっている利用者を支える訪問看護サービスは高まる需要に応じきれっていないのが実情となっています。

そこで、公益社団法人日本看護協会、公益財団法人日本訪問看護財団、一般社団法人全国訪問看護事業協会の訪問看護に関連する3つの団体が設置した訪問看護推進会議が中心となって策定し、推進してきた「訪問看護10ヵ年戦略」を見直し、「訪問看護アクションプラン2025」を新たに策定しました。

この「訪問看護アクションプラン2025」は、訪問看護に携わる方が実践すべき4つのアクションプランが次のとおり示されています。

1. 訪問看護の量的拡大
 - (1) 訪問看護事業所の全国的な整備
 - (2) 訪問看護師の安定的な確保
 - (3) 医療機関と訪問看護ステーションの看護師の相互育成
2. 訪問看護の機能拡大
 - (1) 訪問看護の提供の場の拡大
 - (2) 訪問看護事業所の機能の拡大
 - (3) 看護小規模多機能型居宅介護の拡充
 - (4) 訪問看護業務の効率化
3. 訪問看護の質の向上
 - (1) 健康の維持・回復、生活や穏やかな人生の最終段階を支える視点を持つ専門家の育成
 - (2) 看護の専門性を発揮して多職種と協働
 - (3) 訪問看護ステーション管理者のマネジメント力の向上
 - (4) 看護基礎教育への対応強化
4. 地域包括ケアへの対応
 - (1) 国民への訪問看護の周知
 - (2) 地域包括ケアシステムの構築
 - (3) 地域での生活を包括的に支援する訪問看護ステーションの機能強化
 - (4) 訪問看護の立場からの政策提言

以上が 2025 年に向けて訪問看護が目指す姿とその達成に向けたアクションプランとしてまとめられています。訪問看護事業所が行うサービスは、看護師の訪問時に行われるバイタルチェックや病状の確認、清潔のケア、食事のアケや排せつのケア、医師の指示による医療行為や医療機器の管理、終末期のターミナルケア等多岐に亘っています。しかし、訪問看護事業所は、利用者が増加する一方、事業所の経営困難、地域事業所間の連携不足、訪問看護師の慢性的な不足、さらに指導者不足による人材育成の遅れに伴うケア範囲の多様化とそれに対応する知識及び新たな技術を習得する環境の不足等多数の課題を抱えています。

今般、札幌保健医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻が設置構想する保健医療福祉の多様な場において実践、教育、研究に携わるために必要な基礎的素養を持ち、保健医療分野の看護学・栄養学の知識・技術を共有し、互いに実践で活用し展開できる広範で高度な専門的能力、および社会で活用可能な理論的・実践的な研究力と教育力を基盤に、多種多様な組織においてその内外あるいは組織間での卓越した連携・協働力を備え、調整・マネジメント力を醸成することができ、地域の保健医療福祉に貢献できる人材養成は、訪問看護師の質向上とともに課題解決の一助になるものとして大いに期待するところであり、高度な人材確保の面からも新たな力となる構想であると考えています。

2021年12月27日

[Redacted signature block]